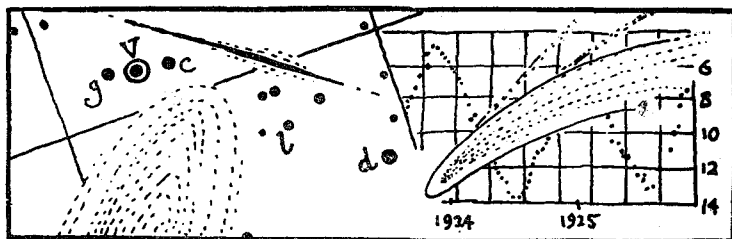


Title	東亞天文協會觀測部月報 (幕末天文學史特輯)
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1933), 13(142): 68-77
Issue Date	1933-01-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/162313
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



東亞天文協會觀測部月報

流星課の報告 (Report, Meteor Section) (39)

課長 小槇孝二郎 (K. Komaki)

昨年八月分の觀測については、獅子座流星雨の諸準備其他で忙しく、未だ充分な整理が出来なかつた。例年の如く八月は觀測者の数が多く、随つて觀測流星數も甚だ多數であつた。北米の長田氏からも報告があり、光彩を添へる事が出来た。下に新觀測者四氏を紹介する。

大分縣速見郡杵築町上町323

渡邊恒夫

大阪府豐能郡池田町室町9

笹部榮一

大阪府豐能郡池田町元新町

福井實信

長野縣上諏訪町大手町

濱喜代治

近畿班に二人、本州中部班に一人、九州班に一人を増して觀測網は更に密となつた。同氏等の健闘を希望する次第である。

流星群の出現狀況 (Notes on Apparitions of Meteor Swarms)

1. ペルセウス流星群 (Great Perseid Shower)

下保、濱、八幡、長田、古畑、森下、片山、吉井の諸氏及び筆者によつて極大日時を中心とした數日間の觀測が行はれた。其の結果によれば本年度の出現狀態は例年のものよりむしろ盛んではなかつたかと思はれる。13日早曉古畑氏の10分毎に數へたる流星を表示すると

時間(Time Int.)	流星數(Meteors)	時間(Time Int.)	流星數(Meteors)
2h 33m — 2h 43m	21	3h 03m — 3h 13m	12
2 43 — 2 53	7	3 13 — 3 23	9
2 53 — 3 03	9	3 23 — 3 33	8

これによつても、可成り豊富な出現であつた事がうかがひ得られる。極大は11日—13日の間にあつた事は確かであるが、12日の觀測が缺けてゐる爲め充分なる事はわからない。

2. 其の他の流星群 (Other Swarms)

窪田氏は1日夜山羊座 α 星附近($\alpha=303.^\circ5$, $\delta=-11^\circ$)に輻射點を有する流星群を觀測された。1時間に約10個といふ割合から見て可成り盛んのものであつた様である。

下保氏は25日夜ベガソス座に一流星群を見出された。光度は3等乃至4等, 速度中位, 色は赤乃至橙色のものであつた。輻射點の位置は赤徑 334 度, 赤緯北16度である。翌26日も觀測を行はれたが, この群に屬するものは見られなかつた。

觀測者及び觀測數 (Summary for August, 1932)

觀 測 者 Observer	略 符 Abbr.	觀 測 地 Locality	八 月 August		
			回 數 Nights	時 間 數 Duration	流 星 數 Meteors
佐 野 英 主	Sn	山梨縣身延山逕泉坊	1	65	36 *
鹽 見 幸 三	Sh	大 阪 市	1	10	8 *
田 端 實	Tb	和歌山縣日高, 松原	1	90	15
渡 邊 恒 夫	Wt	大 分 縣 杵 築 町	1	60	3
天 野 吉 郎	Am	函 館 市	1	20	1
下 保 茂	Kh	札 幌 市	8	430	38
坂 元 鐵 馬	Sk	福 岡 縣 箱 崎	2	120	10
淺 野 英 之 助	As	山 口 縣 長 府	1	90	5+(2)
八 幡 修 一	Yw	長 野 縣 平 野	3	300	116
濱 喜 代 治	Hm	長 野 縣 上 諏 訪	2	110	26
山 田 長	Yd	山 口 縣 小 郡	1	65	4
麻 生 佐 七 郎	Ab	大 阪 市	2	35	3
長 田 政 二	Nt	北米加州帝國平原	9	1050	33
窪 田 繁 夫	Ku	京 都 府 福 知 山	2	150	62 *
古 畑 正 秋	Hu	長 野 縣 岡 谷	3	360	170
森 下 功	Ms	熊 本 市	5	600	152+(5)
片 山 雅 彦 吉 井 耕 一	K—Y	廣 島 縣 竹 原 町	10	1487	364+(9)
笹 部 榮 一	Sb	大 阪 府 池 田 町	1	120	12
小 槇 孝 二 郎	Ko	和 歌 山 縣 金 屋	3	84	47
本 田 實	Hd	鳥 取 縣 八 束	2	300	35

備考 1. * 微光流星の觀測を含む

2. ()内の數は時間外觀測數である。

3. 此の表以外に福井實信島田儀三郎の諸氏及山本會長より 火球の報告があつた。

1. 觀測の概略 (Daily Summary of Observations)

日時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間數 Dur.	流星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間數 Dur.	流星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間數 Dur.	流星 Meteors	F.
Aug.		m			Aug.					Aug.				
7.89	Sn	65	36(14)	0.4	3.87	Nt	150	3		1.00	K-Y	12	14	
11.17	Sh	10	8 (8)	0.7	4.93	〃	150	2		.11	〃	140	63 (9)	
9.01	Tb	90	7 (5)		5.92	〃	120	3		.96	〃	110	12	
21.88	Wt	60	3		6.92	〃	120	0		2.94	〃	150	42 (4)	
25.90	Am	20	1	0.8	7.92	〃	120	3		4.12	〃	175	72 (5)	
1.91	Kh	20	1	1.0	8.08	〃	30	6		9.07	〃	240	35(13)	
11.90	〃	40	7 (6)	0.7	8.87	〃	90	4		11.03	〃	140	32(11)	
17.06	〃	60	1 (1)	0.3	9.90	〃	210	6		13.97	〃	165	16 (8)	
18.88	〃	70	4 (1)	0.3	10.99	〃	60	24		14.12	〃	155	57(36)	
21.91	〃	30	2	0.5	1.90	Kv	120	53	1.0	28.95	〃	120	12	
25.90	〃	120	17	0.95	12.09	〃	30	9 (9)	0.4	29.90	〃	80	9	
26.91	〃	60	6	0.9	11.09	Hu	100	47(42)		1.91	Sb	120	12 (3)	
28.90	〃	30	0	0.4	13.10	〃	150	71(66)		9.15	Ko	40	23 (8)	0.9
27.02	Sk	60	8	0.9	14.12	〃	110	42(33)		14.16	〃	40	22(14)	0.9
27.98	〃	60	2	0.8	8.11	Ms	150	32(21)	0.9	23.89	〃	4	2	
10.02	Hm	30	3 (3)		9.15	〃	120	31(25)	1.0	28.85	Hd	60	3	
11.06	〃	80	23(19)		13.12	〃	120	33(30)	0.6	29.91	〃	120	13	
24.89	As	90	5	0.7	14.14	〃	150	45(38)	1.0	30.91	〃	120	8	
9.12	Yw	30	5 (4)	0.45	15.10	〃	60	11 (8)	0.7	9.09	Ab	20	2	0.6
13.07	〃	210	95(82)	1.0	8.14	Yd	65	4 (4)		14.02	〃	15	1	0.45
14.15	〃	60	16(12)	1.0										

備考 1. ()内は Perseid に屬する流星數である。

2. Nt の觀測は米國太平洋岸標準時(L=120°W)の日時にて示す。

2. 觀測されたる大流星 (Bright Meteors observed)

日付 Date	觀測者 Obs.	出現時刻 Time (J.C.T.)	確度 Wt.	繼續時間 Duration	光度 Magn.	遠度 Velocity	色及其他 Colour &c.	出現點 Appearance		消滅點 Disappearance		流星群 Swarm
								α	δ	α	δ	
Aug 8	Ms	3h 18m	4		1×金	S	Y 痕	72.5	+17	76	+25.5	Perseid
13	〃	1 52	3		1×金	M	vR 〃	52	+67.5	58	+72	
24	Ym	23 20			—2	rS	R. orange	335	-12.5	354	-6	
24	Sd	23 10		5	10× アンタレ		Gr→R→Y	—	?+90?	0?	+59?	*出現消滅とも推定
29	Ar	19 43		2	2×金	S	BY 痕	237	-21	220	-26.5	×
29	Hk	20 ±					RY痕(2S)	252	-1	248	-10	(痕のみの觀測)
29	As	19 35	2	1.0	—2	m	YR 痕?	317?	+6?	322.5	-6.5	×
29	Ms	19 37	3		3~4 ×金	vvS		341	+21.5	351	+30	×
30	As	20 22	3	0.8	—3	m	YR	287	+10.5	263	+10.5	

備考 ×印は同一の流星であることは確かである。出現點及び方向の觀測に於て觀測の精度低き爲詳細を知る事が難かしい、然し諸點を綜合するに出現點は高知縣四万十川下流の上空110Km内外の點であり、流星は北西に飛行し、愛媛縣佐田岬半島の根部川之石町附近の上空70Kmの點で消滅した様である。地面に對する傾斜は30餘度らしく徑路の實長は70Km内外のものであらう。

* 印は同一の流星らしいが Sd (島田氏) の觀測の精度低き爲め推定出來なかつた、

黃道光課報告 (1932年10月)

課長 荒木健兒

今月は實にすばらしい成績を収めた。黃道光課はじまつて以來の痛快事である。曉東天の黃道光は、まだ頂點が銀河の附近にあるが、明るさはどしどし増して来る。9月下旬臺灣で觀測された宵西天の黃道光は、今月は内地でも立派に觀測が行はれてゐる。一方、絶好の機會の對日照は斷然 Main Mast に日章旗をかかげた感がある。

古參の堂々たる觀測者の上に、新しく數人の熱心な觀測者が活躍してゐる。盛觀又盛觀!!

1. 觀測者 (ABC順) 及び觀測數

觀 測 者	略符	觀 測 地	黃 道 光	月の黃道光	對日照	合 計
荒 木 健 兒	Ar	倉敷天文臺	1	0	4	5
淺野英之助	As	山口縣長府	0	0	2	2
橋 本 迪	Is	兵庫縣相生	0	0	2	2
廣瀬永治郎	Hr	岐阜縣美濃	7	0	6	13
下 保 茂	Kh	札幌市	11	0	8	19
金 森 丁 壽	Kn	長野縣水内	0	0	5	5
窪 田 繁 夫	Kb	京都府福知山	0	2	6	8
沓 掛 七 二	Kt	長野縣青木村	1	0	0	1
森 茂	Ma	岡山縣今城村	1	0	0	1
坂 元 鐵 馬	Sk	福岡市外箱崎	1	0	8	9
佐 野 英 生	Sn	山梨縣身延山	14	1	11	26
佐々木一二	Ss	京都府福知山	0	0	1	1
田 端 實	Tb	臺灣新竹州	1	0	2	3
渡 邊 恒 夫	Wt	大分縣杵築	1	0	0	1
山 田 長	Ym	山口縣小郡	2	0	0	2

2, 黃道光觀測日一覽(數字の下に短線を加へてゐるのは西天の觀測)

Ar	5																														
Hr	1					6	7					10	11	12	13																
Kh	1	2	3				7	8					12	13											27	28				30	31
Kt																														31	
Mr	2																														
Sk																														31	
Sn					5	6					11				13	<u>17</u>	<u>19</u>	<u>22</u>	<u>23</u>	<u>25</u>	27	<u>27</u>	28	<u>29</u>					<u>31</u>		
Tb																														9	
Wt																														30	
Ym							7					9																			

3, 一日の東天の黃道光

廣瀬, 下保兩君が殆んど同時刻にスケッチされた。觀測番號はそれぞれ24及び119であり, 兩君共に相當の自信を持つて居られるだけあつて, 獅子座の西部に頑張る光輝強い金星あるにもかかはらず, 驚くべき立派な成績を上げられた。即ち, その形, 明るさ, 明瞭の程度に心地よき一致を認め, 殊にその中心線の位置の完全な一致である。前例のない見事さ!! この頃黃道光は幅大いに廣く, 40° といふ値である。明るさは9月末よりやや強い。(花山急報第11號第12號)

4, 5日及び6日の同時觀測

5日には佐野君と私との間に偶然の同時觀測が成つた。佐野君の方ではもはや薄明中のものであるが, 兩者に面白い多くの一致を発見する。非常に長く, 頂點は銀河に入つてわからない。中心線の位置の一致は1日の結果に劣らない。佐野君は東の地平線が美しく色づく5時に至るまでまだ認められたと報告されてゐる。6日には時刻にやや隔りがあり, 黃道光が少し不明瞭のため, 充分の成績は上げられなかつた, この日太陽は活動を弱めてゐる。(花山急報第11號)

5, 山田君の消長の觀測

7日4時6分にスケッチを終へ, 10分から40分までの消長をグラフにして示された, この曉シイグ惡にかかはらず, 明るい黃道光であつた。この同じ日廣瀬君は消長認め難しと報告されてゐる。

6, 臺灣の觀測

9日3時20分, 非常に明るい黃道光は淡い光帯となつて西天に延びてゐる。變化も盛に見られてゐるが, 少し時刻が早すぎたのが残念である。

7, 美しい細い光帯

廣瀬君は11日には黃經 122° のあたりから, 13日には 127° のあたりから, 黃道光の頂點からハッキリと區別して, 幅約 5° の光帯を正しく黃道上に, 双子座の銀河までスケッチを取られた。但し, 12日には, 空よく, 同様の明るい黃道光にもかかはらず, 光帯はとられてゐない。

8, 佐野君の異常光帯の觀測

黃道光の左右に、斜上に向つて、幅 5° 乃至 10° の淡い光帯を、一本或は二本、多い時には三本までもスケッチに加へられてゐる。例へば、13日の曉4時には、火星のあるあたりから上部で、北に一本、南に二本見られてゐる。何による光か、少しもわからない。他の銳眼の觀測者を待つ。ここに一つ注意したいことは、下保君の光度計による測定に於て、黃道光の頂點より上部の空よりも、底部に近く黃道光の外形より外の部分の空が、少しではあるが明るいことがあり、この異常光帯の存在を物語つてゐるやうにもあることである。(花山急報第14號)

9, 中心線の位置の移動の觀測

黃道光の頂點の伸縮と共に見られる現象で、佐野君は11日曉、13日曉、22日宵、28日曉に見られた。あまりいちじるしい變動ではない、太陽活動との關係も容易に見出し得ない。

10, 下保君の光度計による觀測

黃道光の中心部分、最外部、黃道光以外の近い空、銀河、北極の明さを數字であらはして居られる。これによつて、黃道光の消長及び變動が確實に觀測されてゐる。極めて淡い Band も發見される。(花山急報第12號)

11, 東天薄明の觀測

下保君の試みである。薄明の形は日によつてかなり相違があり、不規則な形を示すことがある。黃道に最も高くあらはれることは勿論であるが、一般にこの頃は黃道より北が早い。これは地平線の傾きによるためであらう、宵の薄明の觀測は曉よりも困難であらうが、まだ試みられてゐない。

12, 西天の黃道光

曉の黃道光が比較的早く弱くなり、その代り宵の黃道光が少し明るすぎるやうである。これは一つの重要な事實で、外國の觀測結果が待たれる。熱心と銳眼で有名な佐野君の御觀測では、例年の通り、非常に高く、離角の値も 120° を超してゐる。頂點はむしろ南に偏してゐる。沓掛、渡邊兩君のものは、經驗淺いためまだ不充分である。

13, 黃道光の色について

餘程むづかしい問題で、まとめにくいのに困る。多少の主観は入つても、注意することにしてゐる。空氣の状態に大いに関係してゐるらしい。下保君は、1日はやや濁つた感じのある乳白色、7日は透明なつめたい感じのある青白色、8日は澄んだ冷い白色、13日は暖い乳白色と記録され、田端君は9日に光澤ある青白色と見られた。更に、私は5日におちつた感じの白色としてゐる。(花山急報第12號、13號、15號)

14, 黃道光の色の變化

山田君は9日に黃白色→青白色、佐野君は27日に同じく黃白色→青白色、11日には變動と共に、青色→白色と記録されてゐる。これ等は眼の疲勞によるのか、シテイングの變化によるのかわからない。(黃道光課通信第18號、花山急報第12號)

15, 27日の黄道光の形の變化

佐野君の觀測によると、4時30分頃には黄道光は放射狀のバンドの集りの如く、下部よりも上部の方が明るく、逆立した徳利の如き形狀に見えた由である。

16, 黄道光帶の消失

27日の下保君の觀測では、3時30分には淡い Band があつたが、40 分には消失し、4時20分のスケッチにも加へられてゐない。

17, 光度計によつて畫かれた等光線

下保君は30日の4時10分にスケッチをとられて後、26分に於て光度 35.0 なる點を連續して、黄道光の中央部に一本の等光線を求められた。この等光線は4時10分の時のスケッチの線より、少しではあるが、北に偏してゐる。非常に面白い試みである。

18, 月による黄道光の觀測

窪田君が17日と19日、佐野君が19日、いづれも月出時をとらへられた。17日はまだ薄明中である。月は満月後、形は小さく、頂點の北偏がある。佐野君はそのすぐ上に對日照のスケッチを加へられてゐる。(花山急報第14號)

19, 對日照の觀測日一覽(數字の下に線を引いてあるのは夜半後の觀測)

Ar		3	4	5	6											
As		3	4													
Hr	1		3	4	5	6								31		
Hs									25				30			
Kb								23	<u>25</u>	26	27		30	31		
Kh	1	<u>2</u>					22		<u>25</u>	26	27		29	31		
Kn					5	6		23			27		30			
Sk		<u>2</u>	3		5	6					26	27	30	31		
Sn	1				5		<u>11</u>	<u>13</u>	19		25	26	27	<u>28</u>	30	31
Ss															30	
Tb	1		3													

20, 總動員で働いて、殆んど一夜ものがしてゐない。14日が満月で、その後は月出前の時刻が用ひられた。月末は新月で自由であつた。13日の佐野君の觀測は月光の中でボンヤリ認めたといふ程度にすぎない。同時觀測的結果は多い。

21, 1日の對日照の狀況

橢圓形或は卵形のままで月をこしたが、比較的明るい出現である。バンドもわづかではあるが見られてゐる。和歌山縣の小槇流星課長からも確實に見られたといふ御報告があつた。(黄道光課通信第18號、花山急報第12號)

22, 上旬の對日照の形の變化

一時圓くなるやうであつたが、大體橢圓形に近く、細長い時もあつた。光帶は多く東に見られた。西方は觀測に容易であるのに却つて見られない。山本博士は5日及び6

日の夜半花山天文臺で觀測された。(花山急報第11號, 12號)

23, 光帶の南偏

4日の淺野君及び私, 5日の坂元君, 佐野君, 金森君及び私, 6日の坂元君及び金森君のものに明らかにみとめられてゐる。

24, 明るさの中心點の東偏

甚だしきは5度に達す。黃緯の方に對しては, その數値は小さいが, いづれかといへば南偏と考へられる。

25, 下旬の對日照の形

次第に細長くなり, 卵形とも橢圓形ともいへない。26日頃から益々細長い形になり, 月末には紡錘形になつた。いちじるしい變化である。中心點はやはり東偏の傾向がある。(花山急報第14號, 15號)

26, 光度計による明るさの測定

下保君の試みである, 對日照の中心, 比較銀河, 北極の三者の明るさを, 變光星の觀測における比例法に準じて, 數値により定められてゐる。

27, 橋本君の變化の觀測

30日21時20分, 急激に増光及び擴大, 東西に Band を張り, 南北に突起を出す, 22分30秒, 減光。24分, 東西に淡い Band を残して原形に復歸と報ぜられた。

28, 佐野君の異常光帶

黃道光の場合の如く, 31日の對日照の中央あたりから, 北に一個, 南に二個の短い光帶がみとめられてゐる。西方のは普通の光帶である。

29, 窪田君の對日照的怪光

25, 26, 27, 30の4日, 宵早く, 魚, ペガソス, 水瓶のあたりに, 對日照に似た, 直徑 15° 乃至 30° で, 東西に長い不規則な橢圓形の怪光をスケッチされた。黃道よりも全く北に在り, 明るさの中心の位置もみとめられてゐる。對日照と反對で, 宵の頃だけ見え, 夜が更けると殆んど見られない。變化もみとめられることがある。25日には西につづく淡い光帶狀のものまでとられてゐる。(花山急報第17號)

米國 Md. 州 New Market 町教區にて
1932年12月5日

親愛なる山本一清教授殿

(前略) 貴下等の黃道光課員の中で, 特に二月中から三月の春分の後までにわたり對日照の御研究を御願ひしたいと思います。希望條項は

(1) 日暮れ後, 對日照が始めて見えるのは何時か? 夕刻の黃道光の出現と同時に否? 此れは重大問題で, 正確な觀察を要す。

(2) 夜半以前に, 形狀の變化が認められるか? 即ち, 吾人は, 幾らか横側から之を觀てゐるか? 勿論, 夜半には, 子午線上に眞正面から見てゐるのだが。

貴下の同勞者中には必ず此等の研究に立派な貢獻をして下さることゝ信じます。皆様に御挨拶を申します。1933年中の御成功多からんことを望みます。

W. E. Glanville.

1932年 十二月

觀測者(地名)	松本(臺中)	渡邊(杵築)	山田(小郡)	荒木(倉敷)	吹發(須磨)	伊達(大阪)	大橋(京都)	龜井(花山)	木邊(近江)	森澤(大垣)	三掛(長野)	沓川(埼玉)	笹谷(東京)	水谷(水澤)	千保(札幌)	下
1	雨	17	19	20	22		欠	15	16	33	19	14	15	14	曇	16
2	雨	曇	20	20	22		欠	19	18	24	18	16	16	16	18	20
3	20	13	21	18	22		欠	19	20	24	17	18	23	18	18	19
4	19	雨	雨	雨	曇		曇	曇	雨	雨	曇	曇	21	曇	曇	18
5	12	雨	雨	曇	曇		曇	曇	雨	雨	雨	曇	曇	雨	曇	17
6	0	曇	曇	曇	曇	病	曇	曇	雨	雨	雨	雨	曇	雨	曇	0
7	11	曇	11	曇	曇		雨	曇	雨	曇	雪	曇	雨	雨	曇	11
8	11	11	12	11	11	氣	雨	11	12	曇	11	雪	曇	11	13	11
9	14	11	14	16	15		12	15	12	18	16	12	12	12	曇	11
10	11	11	12	16	13		11	12	12	11	13	12	11	11	曇	11
11	14	11	14	14	15	の	欠	14	11	旅	14	14	14	13	14	11
12	11	11	雨	11	曇		雨	11	13	曇	12	雨	11	11	曇	雨
13	11	11	25	13	27		23	14	12	雪	26	26	25	12	雪	11
14	12	12	忙	17	29	た	24	13	12	23	23	24	26	24	雪	12
15	14	曇	13	18	18		13	16	13	曇	14	12	15	14	13	13
16	13	13	15	曇	曇	め	13	13	13	曇	14	14	15	13	0	14
17	13	13	14	15	18		14	14	15	17	14	13	13	13	12	13
18	15	15	26	15	22		26	15	27	18	17	15	15	25	14	16
19	曇	15	38	19	14	欠	26	15	17	忙	20	16	17	24	13	14
20	0	0	38	13	13		曇	曇	12	雨	雨	雨	15	0	曇	雨
21	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	測	欠	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
23	0	忙	0	0	0		欠	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
24	0	雨	曇	曇	曇		曇	0	0	曇	0	0	0	欠	0	0
25	0	雨	雨	雨	曇		曇	曇	雨	曇	0	曇	曇	0	欠	0
26	0	雨	病	雨	雨		曇	雨	雨	雨	雪	曇	曇	曇	0	0
27	14	雨	病	16	雨		曇	13	雨	曇	雨	曇	曇	雨	雪	曇
28	13	雨	病	雨	雨		曇	雨	曇	曇	14	曇	欠	曇	12	13
29	13	雨	病	雨	雨		曇	雨	雨	雨	雪	雪	雨	雨	0	13
30	12	12	病	12	13		曇	12	12	旅	12	12	雨	雨	曇	12
31	13	忙	病	13	14		0	13	14	旅	13	13	14	13	雪	13
平均	10	10	16	13	15		15	12	12	15	13	12	13	12	9	10
日數	28	17	18	21	19		11	22	22	11	23	19	21	21	14	28

太陽課より

幹事代理(龜井)

○十二月分の觀測を御報告いたします。

○此の報告は從來は到着順に原稿紙に記入してゐたのですが、今後は觀測者の地理的分布に従つて左表の如くに改めます。

○十一月分水谷氏報告、原稿締切後落掌しました。

○極年のための此月の寫眞觀測は、撮影數35枚、撮影日數19日、欠測1日、惡天氣欠測11日でありました。

○次に課員名簿を載せます全員を同時に掲載したいと思ひましたが、編輯の都合上止むを得ずといふ次第です。なほ名簿は、氏名、觀測地、機械、口径、倍率、觀測方法、その他、の順序になつてゐます。

× × ×

課員名簿(1)

下保 茂

札幌市豊平町3の9
屈折鏡 58耗 44倍
直視

千葉 武志

岩手縣水澤緯度觀測所

水谷 秀三郎

東京市本郷區駒込神明町
屈折鏡 38耗 50倍
直視

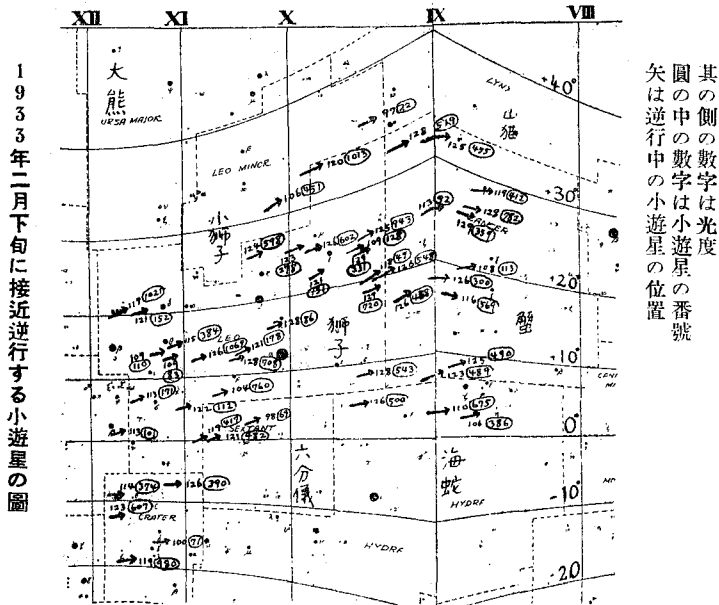
笹川 重雄

埼玉縣本庄町
反射鏡 150耗 50倍
撮影

沓掛 七二

長野縣小縣郡青木村
屈折鏡 102耗 75倍
直視

寫眞課より



「中村急報」要目一覧

- 第 18 號 (1932年12月12日) プルクス彗星 1932i 推算表, ファーユ彗星 1932m 推算表, ゲデス彗星 1932g 推算表, 明るい小遊星.
- 第 19 號 (12月26日) ドドエル彗星の發見.
- 第 20 號 (12月27日) ドドエル彗星について訂正, 其の他, 注意.
- 第 21 號 (1933年1月3日) ゲデス彗星 1932g 發見さる, ドドエル彗星 1932n について
- 第 22 號 (1月4日) キンネケ彗星の推算位置, 冥王星の推算位置, 小遊星 エスタの推算位置.

彗星だより

昨 1932 年末に近い 12 月 21 日ロペンハーゲン電報により濠州アデレード天文臺の Dodwell 氏が水瓶座に一新星を發見したことが報ぜられ, 取り敢へず, 花山で觀測すると共に, 中村急報によつて通報したが, 其の後に入手した所では此の星は 12 月 15 日に南アフリカのケープ市のフォブス Forbes 氏が既に發見し, 同 18 日からケープ天文臺で觀測されてゐることが解つた.